

第4回広陵町地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日 時：平成26年3月3日（月）10：00～11：30

場 所：広陵町役場3階大会議室

出席者：山村会長、青木委員、森本委員、東委員、阪部委員(代理：濱田様)、村上委員(代理：曾田様)、高木委員、大西委員、森本委員(代理：本間様)、西本委員、川邊委員(代理：八伏様)、吾妻委員、島田委員、古田委員、奥谷委員

1 開会進行（事務局）

2 委嘱状交付

青木委員が代表して、山村町長から受領

3 町長あいさつ

協議会参集及び委員就任に対する謝辞。

当協議会は、奈良交通路線バスの休止に伴い、地域公共交通を検討するため、平成22年8月に第1回の開催をさせていただき、以後3回開催してきた。しかし、国への補助申請等の準備が整わず、現在、無償で広陵元気号の試行運行をさせていただいている状況である。今回、再度当協議会の開催をお願いしたのは、現在の元気号は、地域の公共交通の役割を十分果たしているとは言えないため、国・県の支援をいただき、公共交通の再構築を目指したいと考えたためである。

また、奈良交通のバス路線での課題が出てきているところであるので、状況によっては、当協議会で審議をお願いすることもあるので、よろしく願いしたい。

4 出席者紹介

5 議題

(1) 副会長の指名について

東委員を指名

(2) 監事の選出について

青木委員、森本委員を選出

(3) 平成26年度広陵町地域公共交通活性化協議会歳入歳出予算（案）について

別紙資料により、事務局から説明（原案どおり承認）

6 その他

- ・広陵町の公共交通の現状について
 - ・今後の取組概要及びスケジュールについて
- 別紙資料により、事務局から説明

【意見】

- 委員 町の元気号については、利用増になっているが、今後、公共交通の検討を行う際に、既存路線バスの利用人員減とにならないよう対応をお願いしたい。アンケートについて、内容を熟考いただき、単に数を集めるのではなく、真に利用するためにはどうするかという内容も検討いただきたい。
- 委員 町議会としても、公共交通について勉強中であるが、必要な方の目線に立って検討していただきたい。
奈良交通のバス路線については、通勤・学で利用されているため、存続を願うものである。
現状のバス路線を維持するのは、やはり難しいのか。今後、奈良交通はバス経営を撤退して、自治体に任せるつもりなのか。
高田のバスロータリーに元気号を乗り入れる際に、元気号を有料にした場合、問題ないのか。
- 委員 従前、北部の黒字路線で、中南和の赤字補填をしていたが、現在、北部の路線についても利益が減少しているため、現在協議中の路線については、行政の支援がないと撤退せざるを得ない状況である。今後、地元の理解をいただきながら、事業者それぞれの守備範囲を決めて、対応していきたい。
現在、県に対して、廃止検討路線の維持モデル・検討モデル・廃止の案を提議している。奈良交通としては、全てを撤退するつもりはない。現在、全社的に経営の効率化を図り対応している状況である。
- 委員 元気号を利用している者からすると、コミュニケーションの場所としての機能も有することから、現在のままで存続をお願いする。ただし、利用者負担はやむを得ないと考えるため、往復200円程度で検討してはどうか。
- 委員 路線バスの利用者を増加させることも必要では。そのことを踏まえ、元気号と路線バスとの役割を明確にすることが必要と考える。
路線バスを利用すると、最低でも300円かかるので、不公平のないよう元気号を有料化すべきでは。
- 委員 老人クラブの利用者の話では、元気号を楽しく利用しているとのことなので、今後も有効な利用方法を検討していただきたい。
- 委員 元気号をコミュニケーションの場として利用することも想定されることから、やはり存続させるべきと考える。ただ、路線バスの利用者が減少することになると具合が悪いので、やはり、すみ分けが必要と考える。

7 閉会

次回、7月若しくは8月に開催することを約して散会